

佳作

わたしのたから物

広島県
東広島市立西条小学校四年

山下 桃佳

「これ、さわちゃんのものよ。」
四さいになるわたしの妹は、いつもこう言つて、何でも自分の物にしてしまいます。

「わたしの物なのに、どうして!？」
妹は、本当にずるいです。

今日もいつものように、わたしと妹のケンカが始まりました。原因は、スイカです。スイカを二しよに食べていて残りが少なくなつてくると、食べるスピードがどんどん速くなり、最後は、

「これ、さわちゃんのものよ。」
と言つて、いつものようにお皿ごと取りこむのです。でも、わたしは、心の中でグツとがまんし続けるのです。今度は、わたしと妹が、それぞれおばあちゃんに買ってもらったえん筆を

「これ、さわちゃんのものよ。」
と言つて、わたしの分まで全部取つていきました。さすがに、わたしもがまんできなくなり、
「これは、わたしの物よ。」

と言ひ返して、無理矢理力づくで取り返しました。すると、妹は、大泣きになり両親を味方につけます。いつもこの手で、わたしは負けです。

ある日、わたしが風ぜをひいて、高熱を出してねていました。そこへ妹がやつて来て、心配そうな顔をして、「ももちゃん、大じょう夫？なかつたら」ばい遊ぼうね。」

とやさしく声をかけてくれました。わたしは、その言葉聞いて、熱のこともわすれ、飛び上がるほどうれしかったです。その時には、もうケンカのことなど頭の中にはありません。妹のやさしさにふれ、いつも言い返すわたしも悪かつたなあと反せいしました。

実は、わたしは、る守番が大キライです。一人である守番をしていると、いつもは聞こえない音が次つぎと耳に飛びこんできて、こわくて仕方がないのです。それなのに時どき、両親は、わたしにる守番をさせます。そんな時も妹は、わたしのさみしい気持ちがかかるのか、
「しよにる守番しよう。」

と言つてくれるのです。わたしは、とてもうれしくなります。る守番をしている間は、ブロックやおままごとで遊ぶことをようきゆうされますが、妹がしよにる守番をしてくれるだけで安心です。

いつもささいな事で「ばいケンカしています」が、やっばり妹は、わたしのたから物です。わたしがふ安な時も明るく元気をくれるので、魔法をかけられているみたいです。ケンカをしても不思議なことに、すぐに仲直りできるのです。いつもわたしに笑顔と元気をプレゼントしてくれる妹が、わたしは本当に大好きです。

さわちゃん、ありがとう。